

第1・2編で習得した知識を活用し、問題の発見・解決に向けて追究する「深い学び」を重視した学習活動を、第3編に例示しました。

個人と社会

1. 「社会起業」という生き方

トークセッション

- Q** : 現代社会を学んで、どんな感想をもちましたか？
- A** : いいえ、初めて聞きました。社会起業って何ですか？
- Q** : 解決しなければならない問題がたくさんあることがわかりました。特に貧困の問題には心を痛めました。自分も、何か力になれる活動がしたいと思いました。
- A** : 社会起業とは、社会問題の解決のために、事業をおこすことです。貧困層の自立支援に取り組んでいる典型的な例としてバングラデシュのグラミン銀行をみていきましょう。
- Q** : そのためにボランティア活動をする人もいますよね。社会起業という方法もあるのだけれど、この言葉を聞いたことがあ

分析ポイント1
Subject :
 ◆ボランティア活動と社会起業の違いは何だろうか。

1 バングラデシュの気候は、雨季と乾季の時期に分かれ、土地が低いこともあり、しばしば大洪水など自然災害に見舞われる。1974年には大洪水が発生した後、大飢饉がおそった。死者は26,000人ともいわれている。

バングラデシュ

面積：14万km²(2007年)
 人口：1.6億人(2009年)
 人口密度：1.127人
 国民総所得：853億ドル
 一人当たりGNI：533ドル
 (ともに2008年)
 貿易額(ともに2009年)
 輸入額：124億ドル
 輸出額：206億ドル

- ◆上のデータを日本と比較してみよう。
- ◆どこにある国か、どんな歴史を歩んできている国なのか調べてみよう。

グラミン銀行の取り組み

バングラデシュの大学教授であったムハマド=ユヌスは、1974～1975年のバングラデシュの飢饉での救援活動の経験から、農業生産性を改善させても、最も貧しい人々はほとんど利益を得られないことがわかった。地主たちは利益を上げることができたが、最も貧しい人々は土地をもっておらず、工芸品製作などで、日々の生計を維持し、努力をしても貧困から抜け出すことはできなかった。

彼らの発展を妨げているのは何なのだろうか。ユヌスは、「理論を振り回すのではなく、少なくとも一人の生きている人間に対して、ごく小さなことであれ、心からの手助けをしてやろう」(猪熊弘子訳)と、村の貧しい家庭を訪ねた。そこで、ユヌスは一人の女性の話から、貧困から抜け出せない理由を知ることができた。

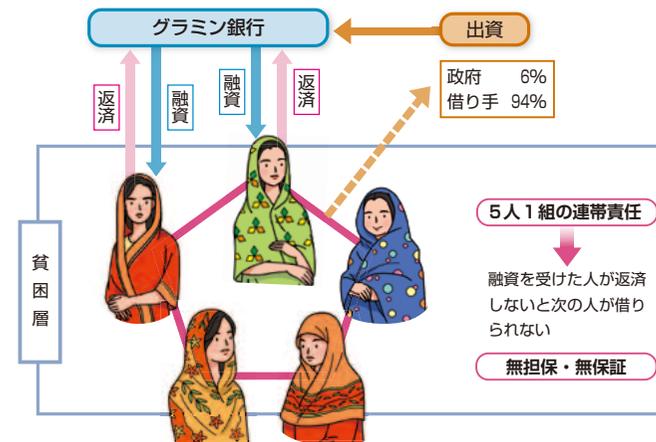
その女性は、竹を編んで椅子をつくっていた。その材料の竹を買うために、現金を地元の金貸しから借りなければならなかった。金貸しは、製品である椅子の価格を自分で決め、女性がその価格で売ること同意したときに現金を貸していた。このような不正な取り引きと高金利のために、女性の手元にはわずか50パイサ(1.6セント)しか残らない。竹の値段は5タカ(16セント)で、その現金があれば、女性は金貸しから借金をせずに、製品を市場で自由に売る

ことができる。同じ村を調べると、合計で42人が856タカ(27ドル)を金貸しから借りていることがわかった。彼らに金を貸す金融機関はなかったため、ユヌスはポケットマネーから27ドルを村人たちに貸した。その結果、42人は手取りを増やすことができ、借りたお金もきちんと返したのである。普通の銀行は、さまざまな理由で、こうした貧しい人々を金融システムから排除してきた。こうした銀行は貧しい人々にとっては価値がないと知ったユヌスは、新しい金融システムを創設すべきことに気づいた。

1976年末、ユヌスが保証人となって銀行から融資を受け、それを貧困層に貸し出す「グラミン銀行プロジェクト」がスタートした。このプロジェクトは成功をおさめ、1983年、新しい法律によって、グラミン銀行を発足させることができた。

グラミン銀行は、貧しい人々のみを対象に、貧困から脱出することを目的に、担保なしで少額のローンを提供している。これをマイクロ-クレジットという。

グラミン銀行は2011年10月現在、81,379の村に2,565の支店があり、約835万人(その97%が女性)の人に貸し付けを行っている。そして、銀行は着実に利益を上げている。ユヌスとグラミン銀行は2006年のノーベル平和賞を受賞した。



なぜ女性か？

- ・貧しい女性は最も苦しんでいる人たちなので、貧困から抜け出そうと自ら進んで一生懸命働く。
- ・女性を通じて家計に金を行き渡らせたほうが、家族の利益という点で効果的である。

①①グラミン銀行の仕組み

分析ポイント2
Opinions :
 ◆なぜ、普通の銀行は、一定の生活レベル以上の人にしかなら融資をしないのだろうか。
 ◆なぜ、グラミン銀行は、貧しい人々にしかなら融資をしないのだろうか。

2 これまでの普通の銀行は、「担保がなければ信用できない」、「貧困層は文字が書けないので、融資申込書に必要事項を書き込むことができない」、「貧困層が必要としている少額の資金では、融資申し込みの書類を作成するためのコストさえまかなえない」などの理由で、貧しい人々を排除してきた。



次に、身のまわりで具体的な事例をさがし、公正な社会の実現に向けたあなたのオリジナルのプランを考えてみよう。

分析ポイント3
Solution :
 ◆社会問題解決のためにどうしたらよいか、プランを考えてみよう。

◆スキルを磨くⅣ ディベートの秘訣 「ゲームだけれど、真剣に戦おう…」

▶1. ディベートをやってみよう！

ディベートはあるテーマ(論題)の肯定側か否定側の立場から討論をして、審判が勝敗を決するゲームで、説得力・聴く力・資料調査・社会への関心など総合的な力をつけることができる。

*ルール：進行の順番と制限時間を守ること。

▶2. ディベートの準備

1. 論題を決める。
2. 1チームを4人ほどで作り、論題の肯定側か否定側の立場を決定する。
3. 新聞・書籍・インターネットなどから自分たちに有利な資料を集める。その資料を証拠に使いながら、立論を組み立てる。
4. 対戦相手の立論を予想して、崩すための資料も用意しておく。

◆ディベート論題の例 肯定と否定が分かりやすい「政策」をテーマとした例。

日本は、ペットに税金をかけるべきである。(税について考える)

日本は、死刑制度を廃止して終身刑にするべきである。(法律について考える)

日本は、二院制の国会を、一院制にするべきである。(政治について考える)

日本は、道州制を導入するべきである。(地方自治について考える)

◆立論の例 肯定側はメリット、否定側はデメリットを出し合って比較する方法の例。

論 題：「日本は、二院制の国会を、一院制にするべきである。肯定か否定か。」

肯定側：「国会を一院制に。メリットは、一院制だと法案成立にかかる審議と決定までの時間が早くなること。政府の政策実行も速まり、変化に迅速に対応できるようになります。」

否定側：「デメリットは、法案が一つの議院だけで審議・議決するようになれば、慎重で十分な審議が行われず、まちがった法案でも誤りが正せなくなり、国民生活に悪い影響が出ます。」

▶3. ディベートの進行の項目と時間(例)

肯定側立論(4分)→否定側質疑と肯定側の応答(2)→ 否定側立論(4)→肯定側質疑と否定側の応答(2)→否定側第1反駁(3)→肯定側第1反駁(3)→否定側第2反駁(3)→肯定側第2反駁(3)→審判団による判定・講評(5)

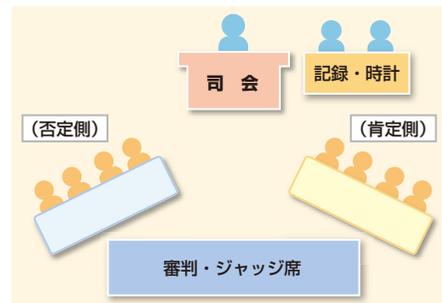
*各項目は全員で分担する。

*質疑は、立論で不明な部分を明らかにする。

*反駁は、相手の立論のまちがいを指摘し、自分たちへの反駁に再反駁する。

*その他の工夫 ・それぞれの項目の前に1分間の「作戦タイム」を入れる。

*反駁が難しい場合は、15分間程度の「全員による討論時間」に変えてもいい。



▶4. 審判の判定

審判団は、メリットとデメリットの大きさや、立論や反駁の論理的な明確さなどを判定するための判定表に基づいて公正中立に判定し、勝ったと思う側に投票し、投票数の多い側を勝ちとする。それぞれのチームに審判からの「講評」があるとディベートの張り合いが出る。

◆スキルを磨くⅤ プレゼンテーションの秘訣 「心に残る、発表をしよう…」

▶1. プレゼンテーションをやってみよう！

伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることをプレゼンテーションという。プレゼンテーションには、伝えたい内容を適切に要約するとともに、伝える相手にはっきりとわかりやすく表現する工夫が必要である。

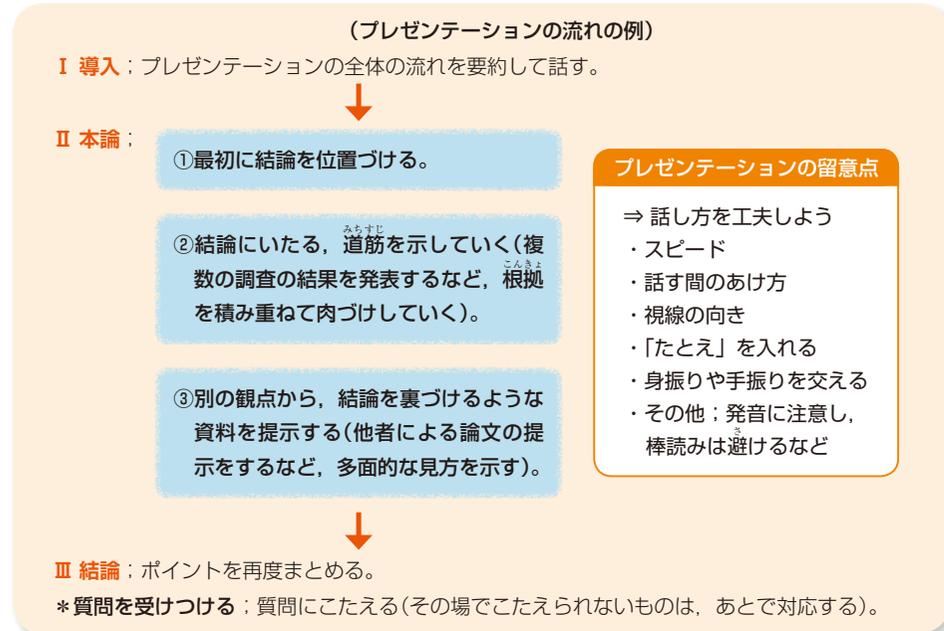
▶2. プレゼンテーションの準備

会場の広さや、設備(マイクの使用が必要か、パソコンは使えるかなど)の状況などを把握しておこう。会場の広さによって声の大きさ、資料の枚数、掲示物の大きさなどが決まってくる。

▶3. ストーリーをつくらう

プレゼンテーションのもち時間に合わせて、ストーリー(発表の進め方と時間配分)を考えよう。

*Ⅰ 導入 ⇒ Ⅱ 本論 ⇒ Ⅲ 結論 に沿って、話す内容のポイントをまとめて、原稿をつくらう。



▶4. 資料づくり

レジュメ、模造紙などを使った資料を作成しよう。

；内容要約型・資料提示型など、プレゼンテーションのストーリーに合わせて作成しよう。

▶5. 表現方法を工夫しよう

◆パソコン … プレゼンテーション用ソフトを利用する。画像取り込みや移りかわりを表現するのに有効である。必ず事前にパソコンまわりの環境のチェックをしよう。

◆スキット(寸劇) … 口頭で行う状況説明がわかりにくく、単調になりそうな場合に行う。

◆実物資料の展示・閲覧 … 回覧して手に取り見てもらう。回覧するタイミングにも工夫が必要。

他者と協働しながら現実の社会に主体的に参画していく資質や能力が育成される教材を取りあげています。